

# 湯川だより



第9号 2013/08/26  
発行：御代田町 町民課

～安定したごみ処理の実現と新クリーンセンター整備に向けて～

## 上層気象調査等見学会を開催



▲見学会の様子「上層気象調査機器が取り付けられた気球を放球する瞬間」



▲大気質測定機材見学の様子

8月1日から5日までの5日間、新クリーンセンター環境影響評価に係る夏季の上層気象調査が面替区にて実施され、昼夜を問わず24時間体制で3時間ごとに調査機器を飛ばし、上空 1,500m付近までの風向や風速、気温の測定が行われました。

8月3日土曜日には、午前9時と午後3時の調査に合わせて、上層気象調査等の見学会を開催し、町内22名のかたが参加しました。

当日は、調査機器を取り付けた直径1mの気球を放球する様子などの調査風景を見学し、人工衛星を経由して瞬時に送信されてくる位置情報や風向、気温の実況中継を聞きながら、全員で上空に上がる気球が小さくなるまで目で追いました。

また、同時期に実施されていた大気質調査の様子についても、測定小屋を開放し、小屋の中に設置された計測機器等を間近で見学しました。

なお、上層気象調査は、夏季と冬季の年2回実施され、次回は12月中旬頃を予定しています。

### 見学会参加者の皆さまから調査に関するご質問をいただきました



▲質疑応答の様子

見学会の後半では、新クリーンセンター環境影響評価現況調査に関する質疑応答が行われました。参加者の皆さまからいただいた質問の一部を紹介します。

#### 【質問】

建設前に現況調査をする意味は何か、建設後も大気質などの調査を行うのか。

#### 《回答》

現況調査は建設前の現況をあらかじめ調査するためのもので、工事による影響や施設稼働後の影響などを予測、評価するための基礎データとなります。もちろん、予測、評価した結果が十分守られ、満足できる結果となっているか、事後調査も行います。

【質問】  
上層気象調査で煙の流れを分析するのか。気球は上昇したが、煙は横に流れて拡散するのではないか。

#### 《回答》

煙突排ガスの拡散予測は、今回の上層気象調査結果のほか、年間で実施している地上気象調査の解析により行います。現時点で詳細は決定していませんが、一般的に煙突排ガスの温度は 200℃前後あり、熱の持つ浮力で煙突の先から 200～300m上昇し、その後、風に乗って拡散していきます。これらを踏まえ、気象の状況や地形の影響を考慮したモデルにより予測を行う計画です。

#### 【質問】

今回の上層気象調査は、建設候補地からではなく、なぜ少し離れた面替の低地から行うのか。

#### 《回答》

長野県環境影響評価技術委員会で方法書の審議が行われた時にも意見がありましたが、今回、建設候補地よりも低い面替の低地から上層気象を調査することで、夏や冬によく見られる逆転層(地上付近から上空における大気や気温の状況が通常とは逆になる現象＝もやが、かかったりする状況等)の発生など、より周辺の状態を把握できることから、調査地点を選定した経過があります。



▲上昇を続ける気球



▲気球を見つめる参加者、双眼鏡で観察するかたも

気球は、分速300mの浮力で上昇し、約5分後には目標の上空 1,500m付近に到達し、その後、小さな点の状態に。天候にも恵まれ、放球された気球の様子をしっかりと見学することができました。普段、間近で見ることの無い上層気象調査等の見学会にご参加をいただき、ありがとうございました。

なお、気球は高度 10,000m以上に達した後、割れて調査機器と共にパラシュートで落下します。落下した一部は、約130km以上離れた東京都中央区、茨城県下妻市で発見され、夏休みの自由研究等の教材に利用したいと連絡がありました。

# 環境影響評価現況調査 夏季の動植物調査が進む

夏季の動植物調査が実施され、多くの個体が確認されています。

哺乳類調査では、捕獲用の罠(シャーマントラップ)などを追加設置し、更なる個体数の確認に努め、アカネズミの捕獲や春季調査に引き続き、ニホンジカ、イノシシが無人撮影機により確認されています。

魚類調査では、網や罠による個体の採取を行い、アブラハヤ、ウグイ、ドジョウ、トウヨシノボリなどの個体が確認されました。爬虫類、両生類の調査では、ヘビやカエル、サンショウウオなどが確認されました。底生動物、陸産貝類調査では、キセルガイ類が確認されたほか、サワガニなども多数確認されています。



▲捕獲されたアカネズミ



▲ニホンジカ(無人撮影機)



▲アブラハヤ



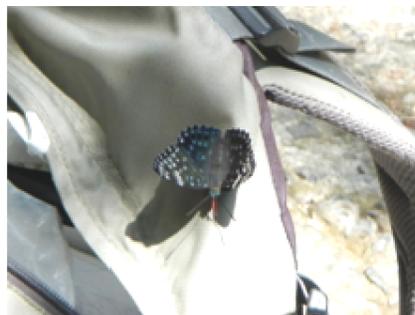
▲トウヨシノボリ



▲サワガニ

昆虫類調査では、直接採取のほかカーテンにライトを当て集まってくる虫を確認するライトトラップなどにより個体の確認が行われました。スミナガシやゲンジボタル、ヘイケボタルなどの個体が確認されています。

植物調査では、緑が濃くなり、多くの草花が確認されています。



▲スミナガシ



▲トモエソウ

# 夏季の大気質・地上気象調査が完了



▲風向、風速計



▲大気質測定小屋



▲大気質測定機材

大気質調査及び地上気象調査は、春季に引き続き夏季の調査が完了しました。4季節のうち、半分が終わり、各地点における調査結果の解析が進められています。

ちょっとそこまで♪



# 中山道 第二十一番宿場町 姫の宿 小田井宿



町内を通る中山道は、生活道路として普段から慣れ親しまれています。この街道は、江戸時代に入り江戸日本橋から京都三条大橋までを結ぶ五街道の一つとして整備されました。『小田井宿』は、日本橋から数えて21番目の宿場町で、追分宿と岩村田宿の間に位置しています。宿屋は、意外にもわずか5軒ほどの小さな宿場町で、隣の追分宿が歓楽街として賑わっていたことから、大名は追分宿に泊まることが多く、大名夫人や姫君などが、小田井宿を利用していたため、別名『姫の宿』と呼ばれていました。



今から24年前の平成元年(1989年)、小田井宿ができて400年という節目を記念し、上宿区と小田井区の区民有志が中心となり、『小田井宿400年まつり』が行われました。以後も『小田井宿まつり』として、毎年8月16日に行われています。お祭は、皇女和宮からの拝領人形と和宮役の姫を中心に道中行列を行います。この人形は、文久元年(1861年)に公武合体政策により、皇女和宮が14代将軍徳川家茂に降嫁する際、中山道を通り江戸に向う道中、小田井宿で一行が休憩を取ったとき、皇女和宮が人形を子どもに授けたものです。

お盆を目の前にした8月の屋下がり、小田井宿は、道沿いを流れる用水のせせらぎと、遠くで響くセミの鳴き声に包まれていました。炎天下の街道に、子どもの頃、友達と小田井宿まつりに行き、魚のつかみ取りをした思い出が蘇ります。町に古くから遺る街道、何人の人がこの道を歩き、この道と共に暮らしてきたのか…。皆さまも往時に思いをはせ、姫の宿小田井宿を歩いてみてはいかがでしょうか(ゆ)



## 編集後記

先日、上司と二人で町民のかたのご自宅を何軒か訪問した時に「施設ができるまでは大変ですね。」とねぎらいのお言葉や「立派なごみ焼却施設を造ってください！」と励ましのお言葉をいただきました。

新クリーンセンターは北パラダ第3駐車場付近を建設候補地とし、現在、環境影響評価が進められていますが、「施設は必要だけれども…」と複雑な思いを抱いているかたもいらっしゃいます。それはとても自然なことで、当然の思いですし、それだけ地域のことを一生懸命考えていただいていると思います。私達、事業に携わる職員として、皆さまのご意見を一つひとつお聞きしながら丁寧に事業を進めていきたいと考えております。暑さにちょっと疲れ気味な私でしたが、職場に戻る足取りが力強くなったのを感じた、夏の日のお出来事でした。

【発行】 御代田町 町民課 環境衛生係  
御代田町大字御代田 2464 番地 2 電話：0267-32-3111 (内線 47)  
【佐久市問合せ先】 佐久市 環境部 新クリーンセンター整備推進室  
佐久市中込 3056 番地 電話：0267-62-2111 (内線 297)